

私の英語史

田崎清忠

日本放送出版協会

まえがき

「私の英語史(上)」を送り出してから約2年。その後もNHKテレビ英語会話初級のテキストに毎月少しずつ続きを載せてきた。それがそろそろ40回分。上巻があって下巻がないのも何となくへんだから、ということで活字にすることにした。

この2年のあいだ、上巻についての読後感を全国の多くの方々からおよせいただいた。その中で恩師藤井一五郎先生のおはがきにはこう書いてあった。

「おもしろい御著をいただいてありがとう存じました。一気に読み終わりました。確かにそういうこともありました。また、たしかにあなたはそういう人でした。はあ、そうだったのか。なるほど、そういうふうに住居の頃から英語に夢中だったのか、と感心したり感銘を受けたり回顧したり思い当たったり、いろいろおもしろい感興を覚えながら最後まで読みました。ご出版のお祝いを申し上げますと同時に、続編を待っています。」

さらっとした文字のあとに、先生のやさしさがにじみ出ているようであった。ほんとうは自分のことなど書きたくないのに、自分の経験が何かの役に立つのなら、と筆を持ち続けさせたのは、藤井先生はじめ多くの方々のはげましのことばがあったからであった。

下巻ははじめて就職した茨城県立古河第一高等学校から

東京教育大学付属中学校に転任するところからはじまり、留学先のミシガン大学に別れを告げるところで終わる。人の一生はおもしろいもので、こうしてふりかえってみると、今ならとてもバカバカしくてやれそうもないようなことを平気でやっていたり、やるべきであることを恐れて避けたりしている。それだからこそ人間は生長していることになるのだろう。これからもきっと、死ぬまで愚かなことをくりかえしていくにちがいない。それでいいのだとも思う。自分の人生をいとおしく思うがゆえに、また他人の一生もひとしお貴重に考えられるきょうこのごろである。

上巻・下巻を通じて何かと協力を惜しまれなかった日本放送出版協会編集部長の中山万郷氏、それに担当者として細かい校正の作業を最後まで続けてくださった白石昇氏に深い謝意をあらわしたい。また本文の中に実名で登場する多くの恩師、知人、友人にも謝辞をのべたい。

1974年9月

田崎 清忠

